

GEIBUN GALLERY

地域連携プロジェクト 芸文ギャラリー

富山大学芸術文化学部 コーディネーター 羽田 純



芸文ギャラリーは、本学部学生の①授業成果・制作活動の発表と②地場産業活性・まちづくりと地域発信を軸に③その他アートやクラフトという要素を補いながら、ここ高岡市に存在するあらゆる文化資源を有効に発信・編集することを目的としている。ものづくりを柱に生成されるコミュニティは地域にとってかけがえのない有機的な出会いを産む『場』であると同時に、学生にとっても大学だけでは経験することのない刺激や発見、出会いの『場』にもなりうる。これらの活動を通じ、情報や文化の発信により街のにぎわい創出にも結び付くよう、企画・運営を目指す。

開設8年目となる2013年度は、定着してきた継続的な企画展などのブラッシュアップや規模拡大など、活動の精度をより高める一年となった。



■かまぼこ大学

県内のかまぼこ製造に従事する業者の若手従業員で構成される組合『蒲友会（ほうゆうかい）』と、芸文ギャラリーによるコラボレーション企画。2012年の第一回開催に続く継続展である今回は、より実践的で、市場性を考慮して取り組んだ。また、芸文ギャラリーでの展覧会の他、蒲友会のなかから手を挙げた4業者（梅かま・富山ねるものコーポレーション・新湊蒲鉾・広又蒲鉾）

と個別に打ち合わせを行い、約半年をかけて新商品を開発し、市内の飲食店で実際にメニューとして取り扱ってもらうことをゴールとして定めた。この手のプロジェクトはワークショップ形式で実験的な試みが行われ、地元でも話題になるが、その後の継続性が無く打ち上げ花火的に終わってしまう例が多く、かまぼこ大学第二回目を始める前にも、メンバーのなかで慎重な議論が交わされた。新商品開発や展覧会開催を前に、まずはコンセプトメイキングからはじめ、本学学生有志たちを交えての意見交換を徹底的に行った。全体的な方向性が決定した後、チーム分けを行い、各業者にそれぞれ一名ずつの学生を担当に付け、新商品開発のための取材やアイデア出しを行った。会社の歴史や商品のラインナップ、売れ筋商品、今後の展望などを聞き出すなどのリサーチから、各社に最も適したアイデアを提案した。各社の成果物は後述するが、学生たちの粘り強い研究と提案の甲斐があって、どれも秀逸なものに仕上がった。

さて、展覧会期がはじまり、ギャラリーでは初日にまずレセプションパーティが行われた。蒲友会では、毎年3月19日を「さいく（細工）の日」と名付けていることから、オープニングをこの日に設定している。壁面や展示台には新作蒲鉾や県内で販売されている様々な企業の蒲鉾を100点以上集めたもの、細工蒲鉾を作る際の動画や写真など、地元住民でさえ知っているようで知らない情報を所狭しと並べた。もちろん、同期間初日からギャラリー近辺の協力飲食店にて新商品の提供が開始された。どの店舗も売れ行きは好調で、継続的に取り扱いをおこなっていただくこととなった。実践的な試みを目指した今回、プロジェクトとしての手応えも大きく、参加した学生たちにとっても素晴らしい経験となった。



・参加企業、学生と成果物



①梅かま（富山市）×平野暉（デザイン情報コース）

当初は若者が親しみやすいサラダとしての提案であったが、提案途中段階での雑談から、ニョッキを模した蒲鉾を作ってみてはどうかという話題になり、食感を研究した「かまニョッキ」が完成した。発展版のチーズインについては、飲食店ケイルのシェフによるアドバイスで、三回にわたって味や食感の検証の末、完成した。

②富山ねるものコーポレーション（高岡市）×本江果鈴（デザイン情報コース）

富山ねるものコーポレーションは、同年春より高岡駅内にてかまぼこをイートイン出来る土産屋をオープンする予定であったことから、「地酒に合うかまぼこ」という明確な要望があった。そこで、県内で有名な酒店へ取材に行き、日本酒の構造や味の仕組み等を細かく教えてもらった。その中で、各酒造メーカーにはそれぞれ銘柄ごとの酒粕が注文できるということがわかり、取り寄せた。結果、酒粕とすり身を混ぜ合わせた「酒の華」が出来上がった。混ぜ合わせる量は何度も検証し、他の料理の味を壊さず、つまみとしても最適な味を探し当てた。

③新湊蒲鉾（新湊市）×神田千澄勢（デザイン工芸コース）

新湊蒲鉾といえば、富山の薬草類を混ぜ合わせた「薬膳蒲鉾」や、乾燥機を使ったかまぼこチップスが特徴的である。地元の食材や素材を利用して季節や見栄えなどに意識の高い新湊蒲鉾の特色を活かした新商品として、料理を彩るつまモノをモデルにした「つまぼこ」と、季節の素材をシート型蒲鉾に練り込み、巻き寿司として提案した「かまシート」の2点が完成した。料理として提供していただいたのは、居酒屋かざくら。盛りつけが非常に見栄えよく、評判の高い一品となった。

④広又かまぼこ×三宅紗英（デザイン工芸コース）

広又かまぼこは、市内の給食としても提供しており、商品だけでなく素材としての研究にも熱心なようだった。オーダーとしては「スイーツとしてのかまぼこ」ということであったが、これは第一回かまぼこ大学の際に実験的に、プリンに近い蒲鉾を作ったことが頭に残っていたようだった。しかし、いざ商品用として様々なスイーツ蒲鉾を作ってみたものの、魚肉としてのエグ味が邪魔をして、どうにも美味くなかった。そこで、甘くないけどスイーツやおやつの部類に入るものを探していたところ、ガレットが候補として挙げた。最も苦労したのはクレープのように薄くのぼしながら焼く技術と、具の味を引き立たせる絶妙な味の調整だった。これに関





してはイタリアンレストランのオステリアタイキに何度も味のチェックをしていただき、完成までに至った。会期中最も注文数の多かったメニューがこの「ギョレット」で、会期終了後も大口注文などをいただいた。

■高岡クラフト市場街

本年度で28回目を迎える「工芸都市高岡クラフト展」を柱に、行政／大学／民間が協力し、様々なものづくりイベントを同時開催することで、「点」ではなく「面」としてのアプローチを試みた。昨年の初開催に続き、より規模や内容を充実した本年度も、多数の学生有志と共に、芸文ギャラリーでも積極的に企画へ参加した。



ク期間中のイベントとしては恒例となった本展では、これまで会場の一つであった「金屋町金属工芸工房かんか」がはずれ、かわりに金屋町にある町屋の一角を借り、規模を拡大して行った。市場街全体としての客数も好調で、搬入搬出から全て関わってくれた学生たちにとっても、貴重な体験となった。



・作家のひきだし展

「高岡クラフト展」出品作家が、会期中まちなかの様々な店やギャラリーなどで、本会場とは別の作品（つまり、ネタのひきだし）を発表する企画である。個々のアイデアや創作性の奥行きや広がりを楽しむことができるだけでなく、街に回遊性も生まれた。4箇所ある各会場にはそれぞれ担当の学生有志を1名以上配置し、ショップ定員や取り扱う作家と個別に相談することによって、社会とのより密接な繋がりやマネジメントを実践的に学ぶ場となる仕組みづくりを行っている。秋のクラフトウィー

・結の美～とやま、祝いの手仕事展～

富山県では慶祝の際、細工蒲鉾だけではなく造形に特化した興味深い品々がまだまだある。その中でも有名なものが、水引きで立体的に作られた宝船である。鶴、亀、打ち出の小槌などなど、めでたいモチーフをふんだんに取り入れることで非常に華やかな印象をもつこれらは、結納の際に差し出される品の中でも、最もクラスの高いものとなっている。本展ではこれらのような水引きによる結納品の他、婚礼の際に女性が仏壇へ挨拶をする前に潜るための、いわゆる「花嫁のれん（加賀のれん）」や、装飾和菓子、蒲鉾など、富山県での慶祝時に登場する、巧みな手仕事からなる祝いの品々を展示した。

また、展覧会開催にあたってはギャラリースタッフや学生を連れて金沢の老舗水引き工房へ視察に伺った。どうやら、水引きによる造形というものは案外と歴史は浅いようで、日本人の暮らしが裕福になってきた時期と同時にこのような装飾技術も発展してきたようだ。



2014年のスケジュール

-
- 1/4 ~ 1/6 新年の器展
 - 1/30 ~ 2/11 院生展～富山大学大学院芸術文化科学研究科修士課程1年生作品展～
 - 2/13 ~ 2/25 ひとてま展
 - 3/5 ~ 3/16 NOWHARE2014
 - 3/19 ~ 4/6 かまぼこ大学
 - 4/10 ~ 4/21 GEIBUN PRIZE COLLECTION 2014
 - 4/26 ~ 5/6 Tommy Dining 12th
 - 5/8 ~ 5/27 デザイナーズチェアとアートブック
 - 5/31 ~ 6/15 富山プロダクトデザインコンペティション展
 - 6/26 ~ 7/1 Gift11
 - 7/3 ~ 7/8 この夏、このまちに生きるわたしたちが忘れてはいけないこと。そしていまでも気軽にできること
 - 7/11 ~ 7/22 アヴァンギャルド末広町
～ブティックヴォルガの、攻める広告～
 - 7/24 ~ 7/29 corona exhibition
 - 8/1 ~ 8/7 ヤルキッズアート道場 夏休みこども教室
 - 8/11 ~ 8/25 ヤルキッズアート道場 夏休みこども展覧会
 - 9/18 ~ 9/28 群像日記～本郷正典 個展～
 - 10/2 ~ 10/6 作家のひきだし 2014
 - 10/2 ~ 10/21 結の美～富山、祝いの手仕事展～
 - 10/23 ~ 11/4 漆に恋して
 - 11/6 ~ 11/18 芸文の0号
 - 11/28 ~ 12/9 伝統工芸職人、ガチで自画像を描く 展